

いつも一緒 富山のペットたち

今回は、犬と猫、最近飼育頭数が増えているウサギの食事についてお話ししたいと思います。

犬も猫も食肉目に属しています。犬は雑食に近く、人間の食べ物も好んで食べるため、拾い食いや盗み食いをするのは圧倒的に犬の方が多いといえます。



池原動物病院長
(富山市経堂)

池原 光輝

犬で一番問題になるのは間食、いわゆるおやつあげ過ぎです。基本的に成犬の食事の回数は1日2回程度ですが、近年は室内犬が増えたことや、いろいろなおやつが販売されているため、昔に比べると間食する機会が増えています。その結果、太り過ぎや歯石の付着など、さまざまな問題が起こっています。大型犬は、太り過ぎが原因でひじやひざなどの関節炎を起こしやすい、最悪歩けなくなることもあります。最近はやっているミニチュアタックスフントなどの胸の長い犬は、さらに深刻で、下半身がまひしてしまう椎間板ヘルニアのリスクが高くなります。

歯石は、ひどい場合、歯より

食べものと病気



太り過ぎが原因で糖尿病になった猫。治療のため、飼い主が自宅でインスリン注射するのが日課だ＝富山市

正しい食事で健康維持

も大きくなってしまいます。悪臭を放つほか、歯ぐきが化膿し、痛くてご飯が食べられなくなったりします。歯の根っこが腐り、鼻の穴や目から膿が流れ出す歯根膿瘍になってつらい思いをしたりもします。歯石は細菌が豊富なので、長い間、付けたままでいると、血液中にばい菌が絶えず入り込み、心臓弁膜症を起すこともあります。

猫の場合、問題になるのは与え方です。時間を定めずならだらら食べさせている方が多いので、2時間くらいたっても残っている場合は片付ける方が良いでしょう。ウサギは、適切な食事が犬や猫以上に大事で、病気を防いでくれます。ラビットフードを中心に与えている方がかなりおられますが、大きな間違いです。牧草中心の食生活に切り替えましょう。

牧草はウサギにとって万能な食事であり、万能薬でもありません。いつでも食べられるように新鮮な物を用意し、ラビットフードは1日2、3回、1度に食

「いつも一緒 富山のペットたち」は、毎月第1木曜日に掲載します。

べ切れる量を与えてください。ウサギでよく見られる臼歯(奥歯)の伸び過ぎ、毛球症、下痢は、牧草を中心にした食生活でかなり防ぐことができます。臼歯は前歯と同様に一生伸び続けます。そのため、牧草をしっかりすりつぶしながら食事をしていないと、臼歯が伸びてしまい、歯で口の中を傷つけ、食事が取れなくなります。ウサギは胃に毛がたまりやすく、ひどいときは大きな塊となつて、食事を取ることができなくなってしまう。牧草は胃腸の働きを促進し、多少の毛なら排せつしてくれます。また、

犬や猫と違い、ひどい水下痢が続くと1〜2日で死に至ることがあります。牧草は繊維質がウンチを硬くし、草食動物に必要な腸内細菌を住みやすくしてくれます。以上はペットの食事と病気に関するほんの一例にすぎませんが、正しい食生活は多くの病気から大切な家族を守ってくれるのです。